

「ユダの手紙」

2019年07月18日

ユダの手紙 1節～7節 イエス・キリストの僕で、ヤコブの兄弟であるユダから、父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。憐れみと平和と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

愛する人たち、わたしたちが共にあずかる救いについて書き送りたいと、ひたすら願っておりました。あなたがたに手紙を書いて、聖なる者たちに一度伝えられた信仰のために戦うことを、勧めなければならぬと思ったからです。なぜなら、ある者たち、つまり、次のような裁きを受けると昔から書かれている不信心な者たちが、ひそかに紛れ込んで来て、わたしたちの神の恵みをみだらな楽しみに変え、また、唯一の支配者であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからです。

あなたがたは万事心得ていますが、思い出してほしい。主は民を一度エジプトの地から救い出し、その後、信じなかった者たちを滅ぼされたのです。一方、自分の領分を守らないで、その住まいを見捨ててしまった天使たちを、大いなる日の裁きのために、永遠の鎖で縛り、暗闇の中に閉じ込められました。ソドムやゴモラ、またその周辺の町は、この天使たちと同じく、みだらな行いにふけり、不自然な肉の欲の満足を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受け、見せしめにされています。

ユダの手紙はフィレモン書と同じく1章のみの短い書簡である。著者は「イエス・キリストの僕で、ヤコブの兄弟であるユダ」となっている。マタイ、マルコ福音書に主イエスの弟たち、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダの名前が記されているが、名前以外には記述はない。彼も主イエスの弟であるヤコブと同様に、権威ある人と見なされ、偽名文書にその名が用いられている。宛先は「父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たち」である。祝福は「憐れみと平和と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられるように」である。

「著者」は、「愛する人たち、わたしたちが共にあずかる救いについて書き送りたいと、ひたすら願っておりました。あなたがたに手紙を書いて、聖なる者たちに一度伝えられた信仰のために戦うことを、勧めなければならぬと思ったからです」と書き始めている。その理由は、「ある者たち、つまり、次のような裁きを受けると昔から書かれている不信心な者たちが、ひそかに紛れ込んで来て、わたしたちの神の恵みをみだらな楽しみに変え、また、唯一の支配者であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからです」と書いている。神の裁きを受けるはずの不信心な者たちが教会に紛れ込み、淫らな楽しみを吹聴し、唯一の支配者であるイエス・キリストを否定している。あなたがたが万事心得ているように、神はイスラエルの民を一度エジプトから救い出されたが、その後、信じなかった者たちを滅ぼされた。「一方、自分の領分を守らないで、その住まいを見捨ててしまった天使たちを、大いなる日の裁きのために、永遠の鎖で縛り、暗闇の中に閉じ込められました。」これは、神の定めに従わなかった天使たちが暗闇に閉じ込められ、神の裁きを受けたという外典に記された故事である。ソドムやゴモラ、またその周辺の町は、裁きを受けた天使たちと同じく、淫らな行いにふけり、不自然な肉の欲の満足を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受け、見せしめにされた。淫らで、不自然な肉の欲とは性的な 素乱で、これらの罪が教会を破壊し、主イエスの福音を捻じ曲げると警告している。